



■令和2年度IT支援者養成研修（出張型）コース一覧 **（申込方法は貢の一番下をご覧ください）**（この講座は終了しました）
※新型コロナウィルス感染予防対策に基づき、感染予防に努めた環境での実施にご協力願います



(1) 聞こえない・聞こえづらいを支える **NEW**

概要	聴力とコミュニケーションの困難をカバーする会話補助的な支援技術（意思伝達装置を除く）
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> 聴力とコミュニケーションに困難をかかえる障害について 聞こえない聞こえづらい方のコミュニケーションを助ける支援技術のデモと演習（専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験） 事例とポイント
コースの活用	聴覚障害によりコミュニケーションが困難になっている方の支援を、道具を通して考えるコース。聞こえを助ける様々な専用機や、音声認識、筆談など多様なコミュニケーション方法を体験し、教育や就労の現場で活かせる事例を知る。
主に対象となる障害	聴覚障害

(2) コミュニケーションを支える

概要	コミュニケーション障害をカバーする会話補助を中心とした支援技術（意思伝達装置を除く）
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションに困難を抱える障害について コミュニケーションを助ける支援技術のデモと演習（専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験） 事例とポイント
コースの活用	聴覚障害、発達障害、言語障害等によりコミュニケーションが困難になっている方の支援を、道具を通して考えるコース。文字盤、絵文字での会話や、音声認識、筆談など多様なコミュニケーション方法を体験し、教育や就労の現場で活かせる事例を知る。
主に対象となる障害	聴覚障害、発達障害、言語障害 等

(3) 意思伝達を支えるコース

概要	意思の表出が困難な障害をカバーする意思伝達を中心とした支援技術
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> 意思伝達に困難を抱える障害について 意思伝達を助ける支援技術のデモと演習（専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験） 事例とポイント
コースの活用	脳血管障害の後遺症やALSの方々、意思伝達が困難になっている方の支援を、道具を通して考えるコース。スイッチ押下による文字やシンボル選択の他、利用者が増えつつある視線入力など新しい技術を体験し、補装具等制度利用の現状を知る。自宅あるいは病院等で、生活のステップを支えていく際の資料ともなる。
主に対象となる障害	ALS、脳血管障害の後遺症等で、意思伝達、意思表出が難しい方

(4)操作困難を支える

概要	情報利用における物理的な操作困難をカバーする支援技術
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・情報利用において操作困難をかかえる障害について ・操作困難を助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験) ・事例とポイント
コースの活用	<p>肢体不自由の方の困難さをケース別に考え、道具を通して支援技術を考えるコース。</p> <p>Windowsやスマートフォン・タブレットが基本機能として持っているアクセシビリティを学び、操作特性を実機体験で理解する。</p> <p>就労支援の現場への情報提供にも。</p>
主に対象となる障害	上肢障害(肢体不自由)

(5)見えない、見えづらいを支える

概要	情報利用における視覚的な困難をカバーする支援技術
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚の障害について ・弱視、あるいは全盲の方の操作を助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験) ・事例とポイント
コースの活用	<p>弱視や全盲の方の情報利用の困難さを実機体験を通して理解し、支援を考えるコース。</p> <p>Windowsやスマートフォン・タブレットが基本機能として持っているアクセシビリティや、専用ソフト等を学ぶ。</p>
主に対象となる障害	視覚障害(全盲、弱視)

(6)理解、認知、記憶を支える

概要	障害や疾病により、理解や認知、記憶等の困難をカバーする支援技術
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・理解、認知、記憶等に困難をかかえる障害について ・様々な支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験) ・事例とポイント
コースの活用	<p>最新のテクノロジーだけでなく、アナログな道具も見直し、記憶や認知などの個別の困難さの解決を考えるコース。</p> <p>活用事例を知り、地域で難しさをかかえる方への情報提供に。また、教育や就労の場の力の引きあげを考える</p>
主に対象となる障害	発達障害、高次脳機能障害、知的障害、失語症等

▼講習実施の目的

障害者のIT支援関係を担当する区市町村職員、障害者福祉センター、障害者就労支援センター等の地域支援者などを対象に、障害者IT支援のための研修を開催し、区市町村における障害者のIT利活用のための基盤を整備する。

【1】対象と受講人数

- (1) 障害者のIT支援関係を担当する東京都内の区市町村の職員
- (2) 障害者のIT支援関係を担当する東京都内の地域支援者等
(障害者福祉センター、障害者就労支援センター、福祉施設等の職員等)

定員は1区市町村10名程度。

【2】研修開催日時、場所

(1)開催日

令和3年1月5日～令和3年3月30日の火曜日又は金曜日(祝日を除く)のうちで、区市町村が受講希望日を選択

(2)時間

原則として、14時から16時半まで（事情によっては相談のうえ両者で調整）

(3) 場所

原則として、受講を希望する区市町村が指定する会場

*新型コロナ感染予防対策に基づき、講習は下記の感染予防に努めた環境を準備願います

ア)研修参加者様には「マスク着用、手洗い・咳エチケットの徹底、発熱等の風邪症状がある場合等には研修参加の取りやめ（欠席時は事前に要連絡）等」のご協力

イ)実施会場での感染防止対策「換気、3つの密『密閉、密集、密接』回避、座席間隔の確保、アルコール消毒薬などの準備、タブレット等の使用機器や教室使用前後のスイッチ、ドアノブ、机等の消毒等」の徹底

[3] 申込方法

受講を希望する区市町村と東京都障害者IT地域支援センターとで、研修日時、場所、受講コース、受講者等を電話で調整し、別紙「令和2年度障害者のIT支援者養成研修（出張型）受講申込書」によりFAXで申し込みます。

施設のスタッフ様など地域支援者の方が受講希望されるケースは、センターへの応募窓口は、所在地の区市町村障害福祉課となります。まずはそちらにご相談ください。

ご不明の際は、下記の問い合わせ先にどうぞ。

(申込先及び問い合わせ先)

東京都障害者IT地域支援センター

【所在地】〒112-0006 文京区小日向4-1-6

東京都社会福祉保健医療研修センター1階

【電 話】03-6682-6308

【FAX】03-6686-1277

[戻る](#)

Copyright (C) 2004 Tokyo ITC All rights reserved.